

行って
みよう

めぐって学んで五感で
味わう紫波探訪

あたたかい人がいる、いこの場所がある。
見て、聞いて、学んで、知って、味わって。
五感で味わう紫波の魅力をご紹介します。

京都から平泉、そして紫波へ 義経の青春を描いた舞台を 見に行ってみよう

本番までおよそ2カ月となった12月19日、劇中の山場となるシーンの稽古を行う出演者たち。せりふや場面に合わせながら、立ち位置や所作などの確認が進みます



第6回紫波町民劇場「義経の春」

- 日時 2月26日(日)〈午前の部〉開演 午前10時 〈午後の部〉開演 午後2時
- 会場 中央公民館 集会室
- チケット 一般1200円(前売り1000円)・高校生以下700円(前売り500円)
※未就学児は入場できません。
- チケット取扱 ナックス、情報交流館、町内各地区公民館、産直センターあかさわ、紫波ふる里センター、古館産直センターグリーンハウス、産直めぐり志和、ルート396長岡、あづまね産直センター
- 問合せ 紫波町民劇場事務局(赤沢公民館内) ☎ 676-3036

第6回目となる紫波町民劇場が、2月26日(日)に中央公民館で開催されます。今回の演目は、赤沢地区に伝わる義経伝説を基にした「義経の春」。源義経が京都から平泉に逃れて過ごしたとされる、16歳から22歳までの青春時代を描きます。

町内から集まった総勢30人の出演者が、昨年9月から稽古を行っています。義経役には、紫波第三中学校2年の長谷川紗萌さん、他の主要キャストに、紫波総合高校2年の吉田美祥さん、工藤逸奎さんが抜てきされました。

脚本を担当した作家の澤口たまみさんは「義経にまつわる資料を調べるうちに、義経は本当に紫波にいたのではな

出演者のコメント

(左) 吉田美祥さん(紫波総合高2年)
「演劇は初めてです。せりふも多くプレッシャーが大きいです。町民劇場は刺激を受けることができ、楽しいです」

(中央) 長谷川紗萌さん(紫波三中2年)
「義経役に選ばれて、不安でしたがとてもうれしかったです。男性の役なので、声のトーンや姿勢などが難しいですが、頑張ります」

(右) 工藤逸奎さん(紫波総合高2年)
「義経の影武者になる山賊を演じます。若い人から年配の人まで楽しめるようなお芝居をしたいです」

